

被災地への職員派遣

震災発生後、被害の状況が明らかになるにつれ、被災地自体の職員不足が露呈してきました。

このような状況に、町でも積極的な支援を行うため、被災自治体への職員派遣を行いました。被災地からの派遣要望は、国や県によって取りまとめられ、要請に基づいて町も数回にわたり職員を派遣しています。

4回の派遣で合計13人の職員が派遣されており、被災地での支援業務に当たっています。今後必要があれば、積極的に派遣する方針です。



【派遣職員を見送り】

町長が見た現場 青森県階上町・宮城県女川町

町では、震災復興への見舞金として、5月2日(月)に県内の階上町へ、5月6日(金)に宮城県の女川町へ、それぞれ150万円ずつを贈呈しました。

階上町は、小泊地域との交流が以前からあり、また女川町は、漁業補償の導入に尽力した全国市町村水産業振興対策協議会の会長を務めていることから、今回の贈呈先に決まったものです。

今回の贈呈は、被災地を励ます意味で顔が見える支援をしたいという思いから、町長が直接現場に出向き、見舞金を持参しました。



【階上町へ見舞金贈呈】

また女川町へは、(株)竹内組の支援物資もトラックで届けられました。

両町からは、後日お礼の言葉が届き、今回の贈呈に対する感謝と復興に向けた決意がしたためられていました。

被災地を訪れた町長は「現場に行く途中、突然景色が一変するのはショックを受けた。何というか、そこで生活をする人たちのことを思うと涙が出そうで、言葉にならない…。特に、女川町へ行ったときは、町の境界を示す看板を通り過ぎた瞬間、辺りに何も無い風景が広がっていた。屋根には自動車が打ち上げられ、津波がこの高さまで到達したことを容易に想像できた。がれきもまだ手つかずで残っていて、とにかくひどい現場だったというのが印象だ。被災者の皆さまには、本当に心からお見舞い申し上げたい。町も、息の長い支援をできる限りしていきたい」と被災地の現状を話しました。



【女川町長と】

■派遣状況

3月26日～31日…派遣先・宮城県名取市
保健師2人、一般職員1人

5月1日～4日…派遣先・岩手県宮古市
一般職員4人

5月19日～22日…派遣先・岩手県宮古市
一般職員3人

6月4日～8日…派遣先・宮城県亘理町
保健師2人、一般職員1人

被災者の避難状況

町には震災以降、さまざまな地域から被災した人が避難してきています。

被災した人へは、役場からの情報提供や相談業務を行うほか、前住所地からの情報提供、災害救助法に基づく支援(生活必需品の支給など)も行われます。

家族・親戚や近隣などで、被災地から避難してきた人がおりましたら、役場総務課まで情報提供をお願いします。
(☎57-2111 内線161)

■各被災地から町内への避難状況

(5月31日現在)

- ・宮城県 8人
- ・福島県 7人
- ・茨城県 6人

※役場で把握している人数